

Title	2019年度定年退職者略歴・著作目録一覧：鹿又伸夫
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2020
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.89 (2020. ) ,p.119- 126
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000089-0119">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000089-0119</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 2019年度定年退職者略歴・著作目録一覧

鹿又 伸夫（かのまた のぶお）

### 1. 学歴・学位

- 1978年3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業（法学士）  
 1981年3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了（社会学修士）  
 1984年3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程単位取得退学  
 1999年3月 博士（行動科学）北海道大学

### 2. 職歴

- 1984年7月～1985年3月 日本学術振興会奨励研究員  
 1985年4月～1987年9月 久留米大学商学部専任講師  
 1987年10月～1995年3月 立命館大学産業社会学部助教授  
 1995年4月～2000年3月 北海道大学文学部助教授  
 2000年4月～2002年3月 慶應義塾大学文学部助教授  
 2002年4月～2020年3月 慶應義塾大学文学部教授  
 2003年4月～2020年3月 慶應義塾大学大学院社会学研究科委員

### 3. 研究業績

#### 3-1. 学位論文

- 「移動過程としての職業選択—行為論的接近と職業的社会化論」（修士論文）慶應義塾大学大学院社会学研究科，1981年3月.
- 「世代間階層移動と結果の不平等」（博士論文）北海道大学，1999年3月.

#### 3-2. 学術論文

- 「移動過程としての職業選択—行為論的接近と職業的社会化論」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第21号，35-45頁，1981年.
- 「P.A. ソローキンの社会移動論とその再検討」（川合隆男他と共著）『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第22号，87-95頁，1982年.
- 「地位達成分析の成果と課題」『社会学評論』第35巻2号，17-33頁，1984年.
- 「疑似対数線型モデルにおける同等なモデル」『ソシオロゴス』第9号，122-135頁，1985年.
- 「社会移動研究と疑似対数線型モデル」『哲学』第80集，127-148頁，1985年.

6. 「差別的交際ログリニア・モデル分析—P.V.Marsden の分析手法をめぐって」(小林淳一と共著)『理論と方法』第 1 巻 1 号, 115-130 頁, 1986 年.
7. 「『社会階層と移動』研究における産業化命題の再検討」『現代社会学』第 13 巻 1 号 (通巻 23 号), 156-181 頁, 1987 年.
8. 「都市化社会の階層構造—友人交際をてがかりに」(小林淳一と共著)『福岡大学人文論叢』福岡大学人文学部, 第 20 巻 4 号, 1161-1187 頁, 1989 年.
9. “A Critique of Marsden’s Parametrization.” (小林淳一と共著)『立命館産業社会論集』第 26 巻 4 号, 93-105 頁, 1991 年.
10. “Three Perspectives on Popular Rebellions in Premodern Japan: A Theoretical Reconsideration.” (野宮大志郎と共著)『立命館産業社会論集』第 27 巻 1 号, 63-76 頁, 1991 年.
11. 「社会階層と資産格差—階層的地位と経済的格差の関連をめぐって」『季刊社会保障研究』第 27 巻 4 号, 360-371 頁, 1992 年.
12. 「階層・移動研究の袋小路と活路」『理論と方法』第 7 巻 1 号, 1-18 頁, 1992 年.
13. 「質的比較分析プログラム QCA について」『立命館産業社会論集』第 29 巻 2 号, 85-132 頁, 1993 年.
14. 「産業化と資産格差—階層・移動研究の新たな方向を探る」『社会学評論』第 44 巻 3 号, 246-261 頁, 1993 年.
15. 「“予言の自己成就”と合理性」『社会学評論』第 47 巻 2 号, 156-170 頁, 1996 年.
16. 「戦後日本における世代間移動の変動」『行動計量学』第 24 巻 1 号, 20-27 頁, 1997 年.
17. 「資産格差の規定要因」『北海道大学文学部紀要』第 47 巻 2 号 (通巻 95 号), 125-150 頁, 1998 年.
18. “Trends in Inequality and Solidification of Socioeconomic Status in Japan.” *International Journal of Sociology*, vol.28, no.1, 11-32 頁, 1998 年.
19. 「ブール代数分析における単純化—クワイン・マクラスキー法による論理関数の単純化」『北海道大学文学部紀要』第 47 巻 3 号 (通巻 96 号), 89-104 頁, 1998 年.
20. 「所得格差と所得決定構造の変化」『日本労働研究雑誌』10 月号 (通巻 472 号), 17-25 頁, 1999 年.
21. 「カテゴリーカル地位達成分析にむけて—初職達成分析の試み—」『法学研究』第 77 巻 1 号, 540-560 頁, 2004 年.
22. 「移動機会格差の変動分析—ロジスティック回帰の応用モデル」『理論と方法』第 19 巻 2 号 (通巻 36 号), 251-264 頁, 2004 年.
23. 「社会科学における比較の問題: コンテキスト vs. 一般原理」『知能と情報』第 16 巻 3 号, 208-213 頁, 2004 年.
24. 「世代内移動は世代間移動を平等化するか?」『社会学評論』第 55 巻 4 号 (通巻 220 号), 384-400 頁, 2005 年.
25. 「計量社会学における多重比較の同時分析: ロジットモデルによる教育達成分析」『理論と方法』第 21 巻 1 号 (通巻 39 号), 33-48 頁, 2006 年.
26. 「世代間移動の性別比較—職歴データによる推定—」『理論と方法』第 23 巻 2 号 (通巻 44 号), 65-83 頁, 2008 年.
27. 「脆弱な地位と社会移動—多連関モデルによる分析—」『法学研究』第 83 巻 2 号, 496-520 頁, 2010 年.

28. “Educational Expansion and Inequality of Educational Opportunity: Taiwan and Japan.” (蔡淑鈴と共著) 『理論と方法』第26巻1号(通巻49号), 179-195頁, 2011年.
  29. 「階層的地位と結婚プレミアム・ペナルティ」『法学研究』第84巻6号, 531-554頁, 2011年.
  30. “Educational Growth in Taiwan and Japan: Effects of Macroeconomic Change.” (蔡淑鈴と共著) 『人間と社会の探究』第73号, 79-95頁, 2012年.
  31. 「結婚・配偶者と就業所得—結婚プレミアムと結婚ペナルティー—」『三田社会学』第17号, 61-78頁, 2012年.
  32. 「出身階層と学歴格差—階層論的説明の比較—」『人間と社会の探究(慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要)』第76号, 1-28頁, 2013年.
  33. 「婚姻状況・家族形態と貧困リスク」『家族社会学研究』第26巻2号, 89-101頁, 2014年.
  34. 「成育家庭の経済水準が子どもの地位におよぼす影響」『法学研究』第90巻1号, 496-516頁, 2017年.
  35. 「貧富の世代間再生産と地位達成過程」『社会学評論』第68巻2号, 283-299頁, 2017年.
  36. 「階層移動のイベントヒストリー分析: 離散時間多項ロジット」『哲学』第140集, 1-23頁, 2018年.
- 3-3. 分担執筆著書
1. 「社会階層とライフスタイル」金子勇・松本洗編著『クオリティ・オブ・ライフ』福村出版, 116-137頁, 1986年.
  2. 「階級・階層と人間」鈴木広編著『現代社会を解説する』ミネルヴァ書房, 199-216頁, 1987年.
  3. 「社会階層と通婚圏」(小林淳一他と共著)直井優・盛山和夫編『現代日本の階層構造①社会階層の構造と過程』東京大学出版会, 65-81頁, 1990年.
  4. 「不平等の趨勢と階層固定化説」直井優・盛山和夫編『現代日本の階層構造①社会階層の構造と過程』東京大学出版会, 151-167頁, 1990年.
  5. 「交際と社会的距離」平松闊編著『社会ネットワーク』福村出版, 89-111頁, 1990年.
  6. 「弱い紐帯の強さ: 社会関係のネットワーク」小林淳一・木村邦博編著『考える社会学』ミネルヴァ書房, 100-114頁, 1991年.
  7. 「産業化と社会移動」小林淳一・木村邦博編著『考える社会学』ミネルヴァ書房, 235-252頁, 1991年.
  8. 「社会移動の変化と軌跡: ライフコース移動アプローチ」直井優・藤田英典編『講座社会学13階層』東京大学出版会, 39-76頁, 2008年.
  9. 「世代間移動の変動」白波瀬佐和子編『リーディングス戦後日本の格差と不平等』日本図書センター, 456-474頁, 2008年.
  10. 「トラブル出来事と相談・法使用行動」樫村志郎・武士俣敦編『現代日本の紛争処理と民事司法2トラブル経験と相談行動』東京大学出版会, 99-118頁, 2010年.
  11. 「世代間移動」日本社会学会社会学事典編集委員会編『社会学事典』丸善, 384-385頁, 2010年.
  12. 鹿又伸夫・裊智恵「教育達成の日台韓比較」石田浩・近藤博之・中尾啓子編『現代の階層社会2階層と移動』東京大学出版会, 107-121頁, 2011年.

## 3-4. 著書・編書

1. [共著]『社会学—現代社会学の課題』（川合隆男他と共著）勁草書房，313頁，1984年。
2. [共編]“The Composition of Stratification and Class in Contemporary Japan（Ⅰ）.”（吉川徹と共編）*International Journal of Sociology*, vol.30, no.1. 2000年。
3. [共編]“The Composition of Stratification and Class in Contemporary Japan（Ⅱ）.”（吉川徹と共編）*International Journal of Sociology*, vol.30, no.2. 2000年。
4. [単著]『機会と結果の不平等—世代間移動と所得・資産格差』ミネルヴァ書房，256頁，2001年。
5. [編著]『質的比較分析』（野宮大志郎・長谷川計二と共編著）ミネルヴァ書房，220頁，2001年。
6. [単著]『何が進学格差を作るのか 社会階層研究の立場から』慶應義塾大学出版会，106頁，2014年。

## 3-5. 翻訳

1. 「実験的方法」, G. イーストホープ著, 川合隆男・霜野寿亮監訳『社会調査方法史』慶應通信, 29-53頁, 1982年。
2. 「マイノリティ」, L. ブルーム・P. セルズニック・D.H. ブルーム著, 今田高俊監訳『社会学』ハーベスト社, 175-191頁, 1987年。
3. 「階級」, L. ブルーム・P. セルズニック・D.H. ブルーム著, 今田高俊監訳『社会学』ハーベスト社, 192-211頁, 1987年。
4. E. モクルズィキー「比較方法論の妥当性について」, J. ベルティング・F. ゲイエル・R. ユルコーヴィッチ編著, 川合隆男・鶴木真監訳『国際比較調査の諸問題』慶應通信, 157-174頁, 1988年。
5. 「多重分割表分析の論理」, G. ボーンシュテット・D. ノーキ著, 海野道郎・中村隆監訳『社会統計学』ハーベスト社, 281-304頁, 1990年。
6. 『社会科学における比較研究』C.C. レイガン著, 鹿又伸夫監訳, ミネルヴァ書房, 254頁, 1993年。

## 3-6. 書評

1. 「庄司興吉著『人間再生の社会運動』」『社会学評論』41巻3号, 337-338頁, 1991年。
2. 「森下伸也・君塚大学・宮本孝二著『パラドックスの社会学』」『理論と方法』5巻1号, 131-133頁, 1991年。
3. 「石田浩著『現代日本の社会移動』(Hiroshi, Ishida. 1993. *Social Mobility in Contemporary Japan*.)」『日本労働研究雑誌』5月号(通巻411号), 50-53頁, 1994年。
4. 「荒牧草平著『学歴の階層差はなぜ生まれるか』」『家族社会学研究』28巻2号, 242-243頁, 2016年。
5. 「ブノア・リウー, チャールズC. レイガン編/石田淳・齋藤圭介監訳『質的比較分析(QCA)と関連手法入門』」『社会学評論』68巻1号, 157-159頁, 2017年。

## 3-7. その他(研究報告書など)

1. 「対数線型モデルのパラメーター確率, オッズおよびオッズ比による再定式化」『数理社会学の現在』数理社会学研究会, 281-296頁, 1985年。
2. 「資料: 社会移動についてのわが国の雑誌論文目録—特に地域移動に関して, 1970年~1980年」(川合隆男他と共著)『法学研究』第58巻5号, 56-78頁, 1985年。

3. 「階層化過程の地域比較」小林淳一他著『階層構造の地域比較—九州 SSM 調査からの報告』九州 SSM 調査報告書, 7-27 頁, 1987 年.
4. 「ログリニア・モデル分析のためのプログラム“PLM3”」盛山和夫編『社会移動分析のコンピュータ・プログラム』昭和 61 年度科学研究費補助金(総合 A) 研究成果中間報告書, 91-111 頁, 1987 年.
5. 「オッズ比分析のためのプログラム“ODDS3”」盛山和夫編『社会移動分析のコンピュータ・プログラム II』昭和 62 年度科学研究費補助金(総合 A) 研究成果報告書, 21-32 頁, 1988 年.
6. 「経済的不平等と地位達成」『1985 年社会階層と社会移動全国調査報告書 第 1 巻 社会階層の構造と過程』1985 年社会階層と社会移動全国調査委員会, 105-130 頁, 1988 年.
7. 「友人交際からみた社会階層」(小林淳一他と共著)『1985 年社会階層と社会移動全国調査報告書 第 2 巻 階層意識の動態』1985 年社会階層と社会移動全国調査委員会, 293-313 頁, 1988 年.
8. 「健康, 社会活動・社会関係と高齢者意識」『都市高齢者の生活構造研究』昭和 61~63 年度科学研究費補助金(総合 A) 研究成果報告書, 56-62 頁, 1989 年.
9. 「資産階層の時代は来るか?」『ESP』経済企画協会, no.222, 23-27 頁, 1990 年.
10. 「階層固定化をめぐる」『TRI-VIEW』東急総合研究所, 第 5 巻 4 号, 13-18 頁, 1991 年.
11. 「住宅取得と資産形成の地域比較」『生活の豊かさ—イメージと現実』連合総合生活開発研究所, 135-161 頁, 1993 年.
12. 『生活の豊かさ指標』(盛山和夫他と共著)連合総合生活開発研究所, 94 頁, 1993 年.
13. 「階級階層構造の変動と趨勢」石田浩編『社会階層・移動の基礎分析と国際比較』科学研究費補助金特別推進研究(1) 研究成果報告書, 1-26 頁, 1998 年.
14. 「資産格差の形成メカニズム」鹿又伸夫編『豊かさと格差』科学研究費補助金特別推進研究(1) 成果報告書, 27-57 頁, 1998 年.
15. 「ブール代数アプローチにおける単純化」鹿又伸夫編『ブール代数アプローチによる質的比較』科学研究費補助金基盤研究(B)(1) 成果報告書, 1-13 頁, 1998 年.
16. 『裁判官の経歴移動』科学研究費補助金基盤研究(C)(2) 成果報告書, 39 頁, 2001 年.
17. “Dynamic Changes of Social Mobility in Japan 1955-95.” Paper presented at the meetings of the Research Committee 28 on Social Stratification and Mobility, International Sociological Association, Tokyo, 2 March, 2003.
18. 『現代日本における階層的な不平等構造の変動』科学研究費補助金基盤研究(C)(2) 成果報告書, 76 頁, 2005 年.
19. “The Process Generating Relative Mobility in Japan: The Simultaneous Analysis of Intergenerational and Intragenerational Mobility.” Paper presented at the meetings of the Research Committee 28 on Social Stratification and Mobility, International Sociological Association, Nijmegen, 12 May, 2006.
20. “Is Japan a Rigid Society to Preserve Inequality? : Social Mobility along with Life Course, 1918-2005.” Paper presented at the meeting of the Research Committee 28 on Social Stratification and Mobility, International Sociological Association, McGill University, Montreal, Canada, 16 August, 2007.
21. “Is Japan a Rigid Society to Preserve Inequality? : Social Mobility along with Life Course, 1918-2005.” 渡邊勉編『世代間移動と世代内移動』(2005 年 SSM 調査シリーズ 3) 2005 年社会階層と社会移動

調査研究会, 27-54 頁, 2008 年.

22. 鹿又伸夫・田辺俊介・竹ノ下弘久「SSM 職業分類と国際的階層指標：EGP 階級分類・SIOPS・ISEI への変換」前田忠彦編『社会調査における測定と分析をめぐる諸問題』（2005 年 SSM 調査シリーズ 12）2005 年社会階層と社会移動調査研究会, 69-94 頁, 2008 年.
23. 鹿又伸夫・裴智恵「高学歴化と教育達成格差：日本・台湾・韓国の比較」有田伸編『東アジアの階層ダイナミクス』（2005 年 SSM 調査シリーズ 13）2005 年社会階層と社会移動調査研究会, 55-74 頁, 2008 年.
24. 「バブル崩壊後の所得格差と社会階層」佐藤嘉倫編『流動性と格差の階層論』（2005 年 SSM 調査シリーズ 15）2005 年社会階層と社会移動調査研究会, 47-65 頁, 2008 年.
25. 『地位達成構造と機会格差の時間的変容』平成 17~19 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書, 108 頁, 2008 年.
26. 「大学に進むという夢～阻むものと促すもの」慶應義塾大学文学部『文学部は考える 3 夢を考える』慶應義塾大学出版会, 97-108 頁, 2012 年.

### 3-8. 学会発表

1. 「大都市中心部における地域階層構造」第 56 回日本社会学会一般研究報告（「階級・階層（2）」部会），埼玉大学，1983 年 10 月 9 日.
2. 「社会移動研究における対数線形モデル応用の諸問題」第 57 回日本社会学会一般研究報告（「階級・階層 1」部会），龍谷大学，1984 年 10 月 13 日.
3. 「階層・階級研究における産業化命題の再検討」第 44 回西日本社会学会理論部会報告，西南女学院短期大学，1986 年 5 月 9 日.
4. 「階層的通婚と地位達成」第 62 回日本社会学会一般研究報告（「階層・階級」部会），早稲田大学，1989 年 10 月 22 日.
5. 「在宅高齢者介護におけるソーシャル・サポート」（早川岳人と共同発表）第 17 回数理社会学会大会研究報告，金沢大学，1994 年 4 月 5 日.
6. 「“予言の自己成就”の思考実験—ブール代数分析の応用」第 18 回数理社会学会研究報告，奈良大学，1994 年 11 月 8 日.
7. 「“予言の自己成就”の思考実験—ブール代数分析の応用」第 43 回北海道社会学会一般報告，北海道教育大学旭川校，1995 年 6 月 10 日.
8. 「階級・階層と所得格差—1955~1995 年 SSM 全国調査のデータ分析」第 45 回北海道社会学会一般報告，東京理科大学長万部校，1997 年 7 月 5 日.
9. 「資産格差の形成メカニズム」第 25 回行動計量学会シンポジウム「現代日本の社会構造を探る—社会学と行動計量学との対話」報告，仙台市戦災復興記念館，1997 年 9 月 7 日.
10. “Dynamic Changes of Social Mobility in Japan 1955-95.” Presented at the meetings of the Research Committee 28 on Social Stratification and Mobility, International Sociological Association, Tokyo, 2nd March, 2003.
11. 「移動機会格差の時間的変化にかんするログリニア・モデル」第 38 回数理社会学会一般研究報告，山形大学，2004 年 9 月 19 日.

12. 「Ordered Logit Modelによる移行的教育達成の分析」第40回数理社会学会一般研究報告, 同志社大学, 2005年9月14日.
13. 「The Simultaneous Analysis of Intergenerational and Intragenerational Mobility by Conditional Multinomial Logit Model」第41回数理社会学会一般研究報告, 東京大学, 2006年3月4日.
14. “The Process Generating Relative Mobility in Japan: The simultaneous Analysis of Intergenerational and Intragenerational Mobility.” Presented at the meetings of the Research Committee 28 on Social Stratification and Mobility, International Sociological Association, Nijmegen, 12th May, 2006.
15. “A simultaneous Comparison of Intergenerational and Career Mobility, Temporal Changes and Cross-national Differences: Conditional Multinomial Logit Approach” with Hirohisa Takenoshita. Presented at the International Conference on Comparative Social Sciences, Sophia University, Tokyo, 16th July, 2006.
16. 鹿又伸夫(裴智恵と共同報告)「独自性 vs. 変化スピード: 教育達成の日韓比較」第79回日本社会学会一般研究報告 III「テーマセッション: 東アジア階層モデルの可能性」立命館大学. 2006年10月29日.
17. “Is Japan a Rigid Society to Preserve Inequality? : Social Mobility along with Life Course, 1918–2005.” Presented at the meeting of the Research Committee 28 on Social Stratification and Mobility, International Sociological Association, McGill University, Montreal, Canada, 16th August, 2007.
18. “Gender, Class, and Access to Higher Education: Taiwan and Japan.” with Shu-Ling Tsai. Paper presented at the meeting of the Research Committee 28 on Social Stratification and Mobility, International Sociological Association, Stanford University, Palo Alto, U.S.A., 20th August, 2008.
19. 「地位達成アプローチの復権: Research Agenda」第48回数理社会学会一般研究報告, 北星学園大学, 2009年9月19日.
20. 「教育達成格差の形成メカニズム: 文化資本論, 相対的リスク回避説, ウィスコンシン・モデルの比較」第49回数理社会学会一般研究報告, 立命館大学, 2010年3月7日.
21. “How Structural Change Increase Women’s Schooling: Taiwan and Japan.” with Shu-Ling Tsai. Presented at the World Congress of Sociology, International Sociological Association, Gothenburg, Sweden, 20th July, 2010.
22. 「結婚・家族と所得格差」三田社会学会 2011年度学会シンポジウム「21世紀日本社会の階層と格差」報告, 慶應義塾大学, 2011年7月9日.
23. 「結婚・家族と貧困リスク」日本家族社会学会第21回大会自由報告, 甲南大学, 2011年9月10日.
24. 「階層・家族と教育達成一階層理論的説明の比較」日本教育社会学会第63回大会一般報告, お茶の水女子大学, 2011年9月23日.
25. 「配偶者の階層的地位と結婚プレミアム・結婚ペナルティ」北海道社会学会第60回大会一般報告, 國學院大學北海道短期大学部, 2012年6月9日.
26. 「階層・家族と貧困リスクの変化」日本社会学会第85回大会一般報告, 札幌学院大学, 2012年11月4日.
27. 「男女のライフコースにおける結婚・家族と貧困リスク」北海道社会学会第61回大会一般報告, 北海道大学, 2013年6月8日.



28. 「結婚プレミアムと階層的配偶者選択」西日本社会学会第 72 回大会一般報告, 西南学院大学, 2014 年 5 月 10 日.
29. 「結婚プレミアム・ペナルティと階層的配偶者選択」北海道社会学会第 62 回大会一般報告, 札幌大谷大学, 2014 年 6 月 7 日.
30. 「階層移動における安定性と流動化: ライフコース移動生起」数理社会学会第 59 回大会一般報告, 久留米大学, 2015 年 3 月 14 日.
31. 「階層移動の生起と底辺層増大」西日本社会学会第 73 回大会一般報告, 山口県立大学, 2015 年 5 月 16・17 日.
32. 「貧富の世代間再生産—地位達成過程 vs. 直接的再生産」関西社会学会第 67 回大会一般報告, 大阪大学, 2016 年 5 月 28・29 日.
33. 「階層的同類婚と結婚傾向」北海道社会学会第 64 回大会一般報告, 札幌市立大学桑園キャンパス, 2016 年 7 月 2 日.
34. 「学歴同類婚研究の終焉?」日本社会学会第 89 回大会一般報告, 九州大学伊都キャンパス, 2016 年 10 月 8・9 日.
35. 「地位達成過程は貧富の世代間再生産を媒介するか?」西日本社会学会第 75 回大会一般報告, 松山大学, 2017 年 5 月 13・14 日.
36. 「経済的格差の世代間再生産傾向と地位達成過程」北海道社会学会第 65 回大会一般報告, 北海道情報大学 (江別市), 2017 年 6 月 10 日.
37. 「現代日本における紛争の発生と終結」法文化学会第 20 回研究大会シンポジウム (法を使う/紛争文化) 報告, 上智大学 (東京都), 2017 年 11 月 11 日.
38. 「階層移動の固定化と周辺化—離散時間ロジット・二項ロジット応用への警鐘—」数理社会学会第 65 回大会一般報告 (東京都武蔵野市・成蹊大学), 2018 年 3 月 14・15 日.
39. 「トラブルから争いへ—民事紛争のイベントヒストリー分析—」関西社会学会第 69 回大会一般報告 (松山大学), 2018 年 6 月 3 日.
40. 「世代間移動格差の中短期的変化—」北海道社会学会第 67 回大会一般報告 (北海道大学), 2019 年 6 月 1 日.